

9条田んぼ田植え



5月26日、桑折町で県北農民連9条田んぼの田植えを行いました。新婦人の会員や子供の参加もあり、晴天の下楽しく田植えを終えました。田植え後に町内をトラクター・軽トラックでパレードし、「平和憲法9条を守ろう!」とアピールしました。終了後はいちご狩り、さやいんげん取り放題を楽しみ、参加者も笑顔でした。

ふくしまプライドPR事業

～須賀川産直センター市場訪問～



6月1日・2日、須賀川産直センターそ菜部20名は浜松中央卸売市場を訪問し、市場関係者と懇談を行った。未だに福島県産の野菜や果物を拒否する所もある中、産直センターのきゅうりや梨は評判が良く、産直センターの名に恥じないものづくりに励もうと参加者は意欲をみせた。

NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介！
若き農業者のつづき の一と
せいねんぶ農人



トルコキキョウの定植をしています。5月下旬に植えたものは9月に出荷。苗の状態からは想像もつきませんが、ピンクの八重の花が咲きます(たぶん)。そして私は手伝っているだけ!慣れない作業で足が痛い...ダメージが数日続いたのは内緒。
by菊地

持続可能な社会は、
家族農業を守ること
国連が提唱
(2019年から10年)
「国際家族農業年+10」



日本人の食べ物は、誰がどこでつくるのか?

崩壊寸前の「日本の農業生産基盤」、そして世界的な土壌侵食。

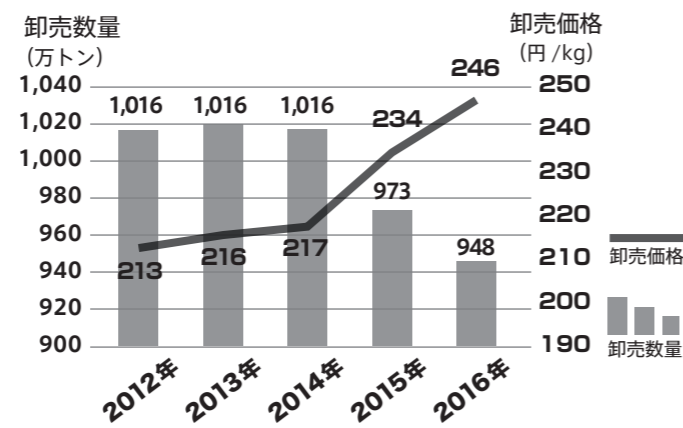
毎年、六万戸の販売農家が農業をやめてゆく。

日本農業の生産基盤は、崩壊寸前です。二〇一七年の販売農家戸数は百二十万戸。二〇〇〇年は、二百三十三万戸であり、この十七年間で現在の農家戸数と同じ農家が自分で食べる以外の生産をやめたことになりました。いま日本の農業を支えているのは、六十五歳以上の農民です。二〇一〇年までは、この層が百二十万人台をキープしていましたが、二〇一五年は十万人減少し、特に目立つのが五十歳から五十九歳の層が十万人減っていることです。従来、退職したあと農業を継ぐというパターンが農業を維持する力になっていましたが、この形も崩れかかっています。

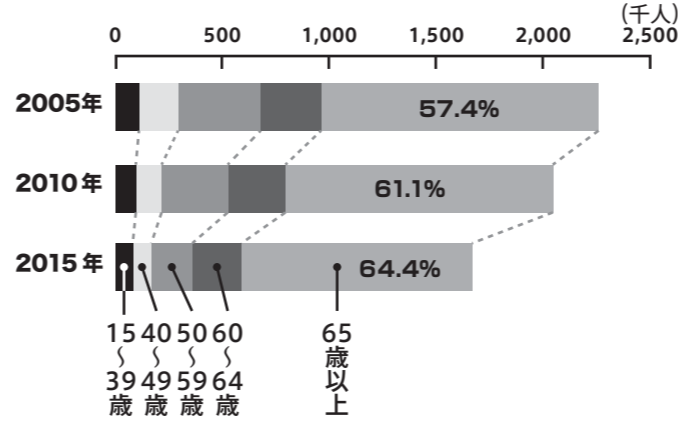
野菜価格の推移は、気候によることが大きな要因ですが、二〇一五年の不作以降、生産が回復しません。これは、農業生産者の意欲減退、生産基盤が崩壊しつつあることが大きな理由と考えられます。

こうした事態に政府の政策は大規模化・効率化です。日本農業の生産基盤が崩壊することは、日本の食料危機の到来を意味します。いま、国民的な運動がなければ極めて深刻な事態が到来することを肝に銘ずべきです。

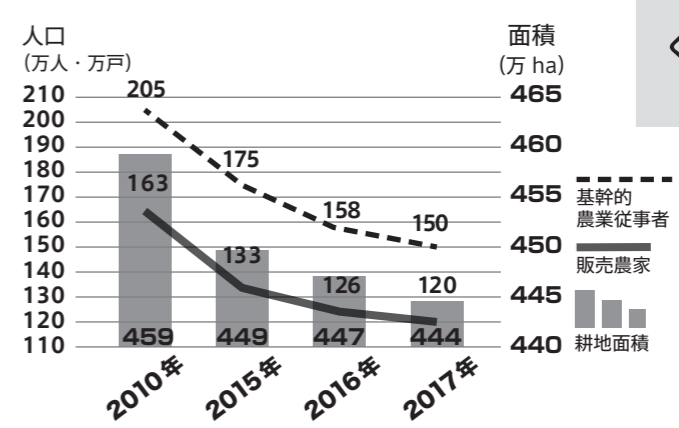
卸売数量の減少と高騰する卸売価格
野菜の卸売数量及び販売価格の推移



農業人口の高齢化と減少
販売農家・基幹的農業従事者・耕地面積の推移



減少する農業人口と耕地面積
販売農家・基幹的農業従事者・耕地面積の推移



世界の優良農地が消えてゆく。

土壌侵食によって土壌の機能が損なわれると、食物生産量の落ち込み、水質悪化、生態系の破壊、土地の砂漠化等につながります。また、表土が流出することで植物が育たなくなった土地では、光合成の効果も減少し大気中のCO₂が増加していきます。

ヒマラヤ、アフリカなどの山岳地帯、インド、中国などの半乾燥地帯では過放牧、過度の森林伐採、不適正な農業、大規模開発等が原因となっており、降雨などによる土壌侵食が深刻化しています。

世界有数の食料輸出国アメリカでも、毎年一%のペースで農地が侵食によって失われており、世界の穀倉地帯の農地が土壌侵食のダメージを受けています。

世界の食料生産が危うい。

一般に、耕起を伴う農地としての土地利用は土壌侵食が生じやすく、とくに、降雨量の多い地域や傾斜地はその脆弱性が高いのです。現在進行している土壌侵食は、世界の食料生産の増加を毎年〇・三%の割合で抑制しているとされています。この状態が二〇五〇年まで継続すると、食料生産の損失は約一〇%に達すると推計されています。

